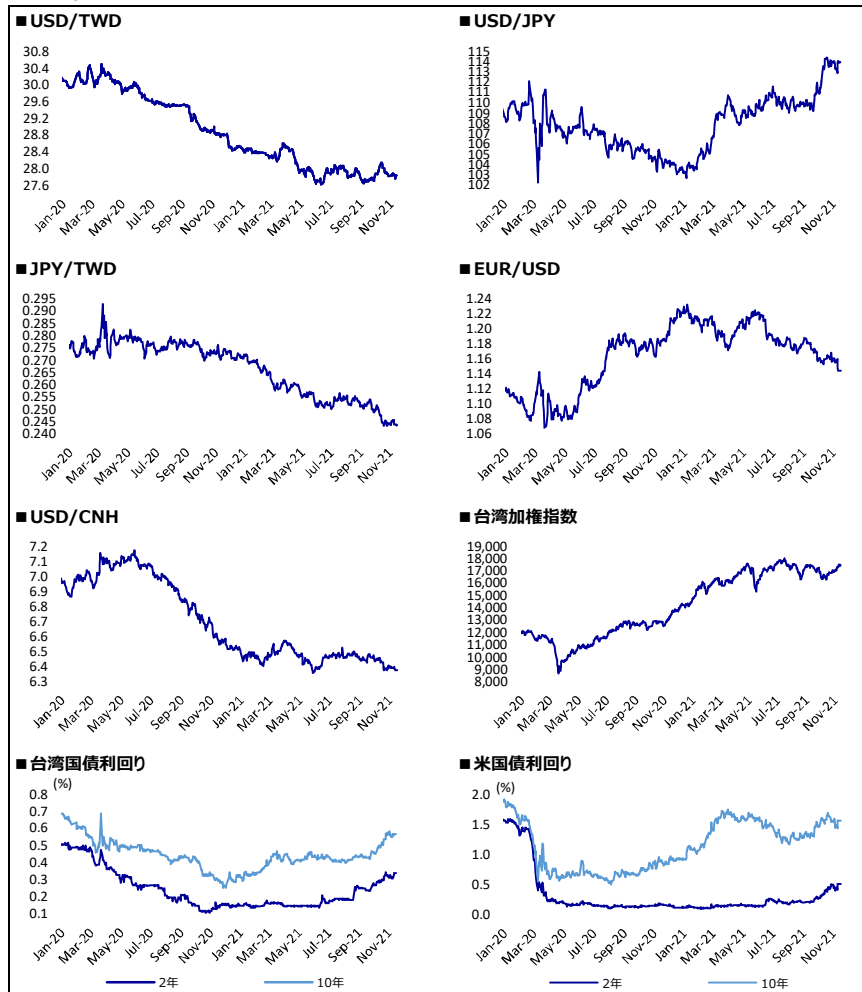


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/8は27.900でオープン後、台湾株が上昇する中、台湾ドル買いが優勢となり、じり安となると輸出企業もドル売りを急ぎ27.83付近まで下落。11/9も半導体セクターを中心に台湾株が買われると外国人投資家の台湾ドル買いが入り、27.73付近まで下落。11/10も台湾ドルが買われ、一時27.718まで下落したが、米CPIの発表を控え、警戒感が高まるとドルが買い戻された。11/11は前日の米CPIが約31年ぶりの水準となり、米国の早期利上げ観測が高まったことからドルが買われ、27.84付近まで上昇したものの、輸出企業のドル売りも散見され、上値は重い展開に。11/12は前日が米国市場休場であったこともあり、動意に乏しく、最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の27.836で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は306.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は米CPIの結果を受け、上昇。週初11/8は113.35でオープン後、113円台半ばの狭いレンジで推移したが、クラリダFRB副議長の「利上げを検討するには、まだまだ程遠い」の発言を受け、米金利が低下し、ドル円も113円台前半まで下落。しかし、米下院でインフラ投資法案が可決されたこともあり、株高の流れにドル円は下げ止まった。しかし11/9に入ると前日の利上げ観測後退の流れが続き、一時112.73まで下落。米CPIの発表を前にPPIが発表されたが、コアが市場予想を下回り、利上げ観測は後退し、ドル円は112円台後半で推移。11/10は米CPIを前に調整の動きからドルが買われると113円台に反発。注目の米10月CPIは前月比で0.9%と予想を上回り、前年比では+6.2%と約31年ぶりの高水準となり、早期利上げ観測が再び高まり、米金利は上昇。ドル円も114円ちよどまで上昇した。11/11は米国休場の中、114円を挟んで小動き、11/12は米国休場前のドル買いの流れが続き、一時114.30まで上昇したが、新たな材料はなく、伸び悩み、米11月ミシガン大学消費者信頼感指数が予想を下回ると113円台後半に下落した。米最終的に先週比0.5%ドル高円安の113.92で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.680-27.880
先週は米雇用統計を受けて低下した米金利がCPIの結果を受けて上昇したものの、ドル台湾ドルは雇用統計前の水準まで買い戻されず、好調な株価を受け、台湾ドルが買われやすい状況が続いている。今週はFED高官の発言が複数予定されているが、上値は重いと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：113.00-114.70
先週は米CPIを受けて、利上げ観測が高まったが、今週はFED高官の発言が続くため、物価・利上げについてのコメントに注目。インフレ進行を警戒する発言が相次いだ場合、利上げ観測の高まりと共にドル買いとなる流れに注意したい。

今週の予定

11/15 (MON)	米11月NY連銀製造業景況指数
11/16 (TUE)	米10月小売売上高、米10月鉱工業生産
11/17 (WED)	米10月住宅着工・許可件数
11/18 (THU)	米11月フィラデルフィア連銀景況指数
11/19 (FRI)	台湾3Q経常収支

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。